

きのくにコミュニティスクール推進協議会 協議概要

1. 日 時 令和4年3月5日（土） 16:00～17:30
2. 会 場 和歌山県立情報交流センターBig-U
3. テー マ 地域も学校も元気になるきのくにコミュニティスクールのあり方
4. 協議の視点 (1) 令和3年度の県の取組について
(2) 令和4年度に向けた県の推進の方向性について
5. 委員による主な意見
 - (1) 令和3年度の県の取組について
 - ・ミニ座談会は、参加者の距離が近く、双方向性による良い勉強の機会となっているのではないか。
 - ・フォーラムや研修会の連絡は、関係者（学校運営協議会委員等）に周知徹底されていないのではないか。関係者への周知を徹底する方法を模索してほしい。
 - ・研修会は内容を工夫し、学校課題解決のための具体的な取組につなげることのできる学びの場としたい。
 - ・研修会では教職員の積極的な参加を増やしたい。気軽に参加できるような研修会も検討してはどうか。
 - (2) 令和4年度に向けた県の推進の方向性について
 - ・難しい課題であるが、各種団体、自治会等をどう元気づけるかが問われているのではないか。
 - ・コミュニティ・スクールの万能力を活かし、「共有」と「協働」の具現化をどの視点からどのように進めるかが問われている。
 - ・各校種、各学校ならではの特色を活かした取組を創っていけるよう、県の支援、サポートが必要ではないか。
 - ・保・幼・小・中・高・特別支援学校と地域がつながる取組を創っていきたい。
 - ・県教育委員会事務局内の学社連携をさらに進めてほしい。
 - ・校内体制づくりが課題である。各学校で活発な熟議ができるようにしたい。
 - ・各学校運営協議会自体が持続可能なものにしていかないといけない。
 - ・学校運営協議会委員の人選は、学校課題に応じて人選するべき。その上で、きちんと役割を担ってもらおうという校長のビジョンが必要ではないか。
 - ・推進協議会は、市町村教育委員会、県立学校の手綱を引く組織でありたい。
R4年度に実施予定のCS調査から、課題を検証し、課題解決のための支援のあり方を追求していきたい。